

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 知・徳・体の調和がとれた輝く児童の育成
- ①豊かな心の育成
- ②確かな学力の育成
- ③健康・体力・強い意志の育成
- ④地域とともにある安全・安心な学校づくり

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長	豊田 佳男
教諭		教頭	塩田 史彦
阿部 千晶		教諭	松尾 里恵
(研修主任)		教諭	高松 裕美
			(特別支援コーディネーター)

校長

豊田 佳男

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校における実行プランの取組状況の把握について】

授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○四則計算、漢字の読み書き等の基礎的・基本的な学習には意欲的に取り組み、力を付けている。授業が分かると答える児童が多い。(児童の自己評価で「学習内容が分かっている」が95.1%) ●どの学年も学力の二極化が進んでおり、学習への意欲や正確さにも個人差が見られる。 ●タブレットを使うと学習が分かりやすいと感じている児童が多く、学習効果が高まっているが、1割の児童はICTを使うことで分かりにくいと感じている。	・基礎的・基本的な学習の知識・技能を確実に身に付ける。 ・身に付けた技能について、他の教科の学習や、生活の場面において活用することができる。	・授業の5か条(①つかむ②考える③高め合う④まとめる⑤ふり返る)をもとに学習指導にあたり、学習内容の定着を図る。 ・学習時間は必ず「めあて」を提示し学習に対する見直しをもたせ、まとめでは、それに対する「ふり返り」を行う。 ・朝の学習時に、漢字や計算などの反復練習をし、基礎的・基本的な学力の定着を図る。 ・学習内容や指導内容に応じて、効果的にタブレット等のICT機器を活用する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○昨年度、「自分の思いや考えを説明したり、文に書いたりして、相手に伝えることができる」と考える児童が約8割いる。 ●進んでの発表は好むが、自分の考えを文章に書いて表すことが苦手だと感じる児童が目立つ。 ●ICT機器の使用の増加に伴い、「書く」機会が減り、「書くこと」に消極的な児童が増えている。	・各教科において、根拠や理由を明らかにして、筋道を立てて考え、表現したり書き表したりする力を身に付ける。	・「書く」ことへの苦手意識を少しでも緩和し、楽しんで書く学習を取り入れたり、目的や相手意識をもって文章を書く学習を設定したりする。〔日記指導の充実、克明峻徳の実(友達の良いところ見つけカード)の記入など〕 ・国語科に限らず「感想・ふり返りを書く」「したことを記録する」「思ったことや感じたことをメモする」など、様々な場面で書く機会を設け、書くことへの抵抗感を少なくする。また、友達と積極的に共有する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○家庭学習の習慣化・宿題への取り組みが定着してきている。 ○「読書が好き」が83.6%となり、読書を好む児童が増えている。(R3年度は66.9%、R4年度の77.9%と年々数値が上がっている。) ●家庭学習の習慣が身に付かない児童が見られる。	・各教科の学習に主体的に取り組む、自らの課題(授業のめあて)を解決することができる。 ・家庭学習を習慣づけ、苦手な課題に対しても粘り強く取り組む。	・全ての学力の基礎として読書活動を推進する。 ・週1回読書タイムをとり、読書時間を確保する。 ・1万冊読書運動、マイブックリストの活動を活用して学校における読書活動を推進し、質の高い読書活動と家庭での読書活動の啓発を行う。 ・「家庭学習の手引き」をもとに保護者の家庭学習への意識を高め、協力体制の強化を図る。			

令和6年度 学力向上ロードマップ



